

CASBEE京都-新築(2011年版)
上京区総合庁舎

■使用評価マニュアルCASBEE京都-新築(2011年)
■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し		評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 騒音										
1 室内騒音レベル										
2 設備騒音対策										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 負荷変動・追従制御性										
3 外皮性能										
4 ゾーン別制御性										
5 温度・湿度制御										
6 個別制御										
7 時間外空調に対する配慮										
8 監視システム										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 屋光利用										
1 屋光率										
2 方位別開口										
3 屋光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 照明器具のグレア										
2 屋光制御										
3 映り込み対策										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
2 アスベスト対策										
3 ダニ・カビ等										
4 レジオネラ対策										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4 給気計画										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震										
1 耐震性										
2 免震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										

2.4 信頼性					4.0	0.19	-	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備			節水型器具の採用、受水槽2基、井水・雨水利用	5.0	0.20	-	-	
3	電気設備			非常用発電設備の採用、電気室・発電機室は3	4.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法			耐震クラスA	4.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備			電話交換・防災無線、主要通信機器は1階以上	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.4	0.29	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり					4.6	0.31	-	-	
1	階高のゆとり			事務室エリアの階高は4m以上を確保	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	壁長さ比率=0.19	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.31	2.0	-	
3.3 設備の更新性					3.0	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース				3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	4.5
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)	必要緑化係数の確保	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	景観法63条第2項の認定証	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮					4.5	0.30	-	-	4.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A'(全国版準用)	基本設計時にワークショップの開催	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)	できる限りの緑化と庇を設ける	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.9
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	4.4
1 建物の熱負荷抑制				PAL低減率= %	4.7	0.30	-	-	4.7
2 自然エネルギー利用					4.5	0.20	-	-	4.5
2.1 自然エネルギーの直接利用		●自然	A(全国版準用)	トフライトを利用した採光	4.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用		●自然	A(全国版準用)	太陽光パネルの設置	5.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化					4.6	0.30	-	-	4.6
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				ERR=27.7%	4.6		-	-	
集合住宅の評価					4.0		-	-	
4 効率的運用					4.0	0.20	-	-	4.0
4.1 モニタリング				全体の半数以上の電力量の用途構成の把握可	4.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				運用、維持、保全の基本方針を計画	4.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.9
1 水資源保護					4.0	0.15	-	-	4.0
1.1 節水				節水コマなどに加えて、擬音装置・節水型便器を	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					4.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		●自然	A(全国版準用)	雨水利用	4.0	0.67	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				井水を利用	4.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					4.0	0.63	-	-	4.0
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	高炉セメントを使用	5.0	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	再生骨材 タイルカーペット 点字紙を使用	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	可動間仕切り壁を使用	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.5	0.22	-	-	3.5
3.1 有害物質を含まない材料の使用				有害物質を含まない接着材を使用	4.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.3	0.68	-	-	
1 消火剤				不活性ガス消火剤(窒素)を使用	4.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.33	-	-	
3 冷媒					3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮					3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮					3.3	0.33	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					4.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減				指導された規模以上の雨水処理対策を実施	4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制				公共交通利用促進計画の許可済	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				事業用大規模建築物新築等減量計画書を提出	5.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1 騒音					3.0	0.33	-	-	
2 振動					3.0	0.33	-	-	
3 悪臭					3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制					3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制					3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				屋外照明等ガイドラインの1部に該当	4.0	0.70	-	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		●大切	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる